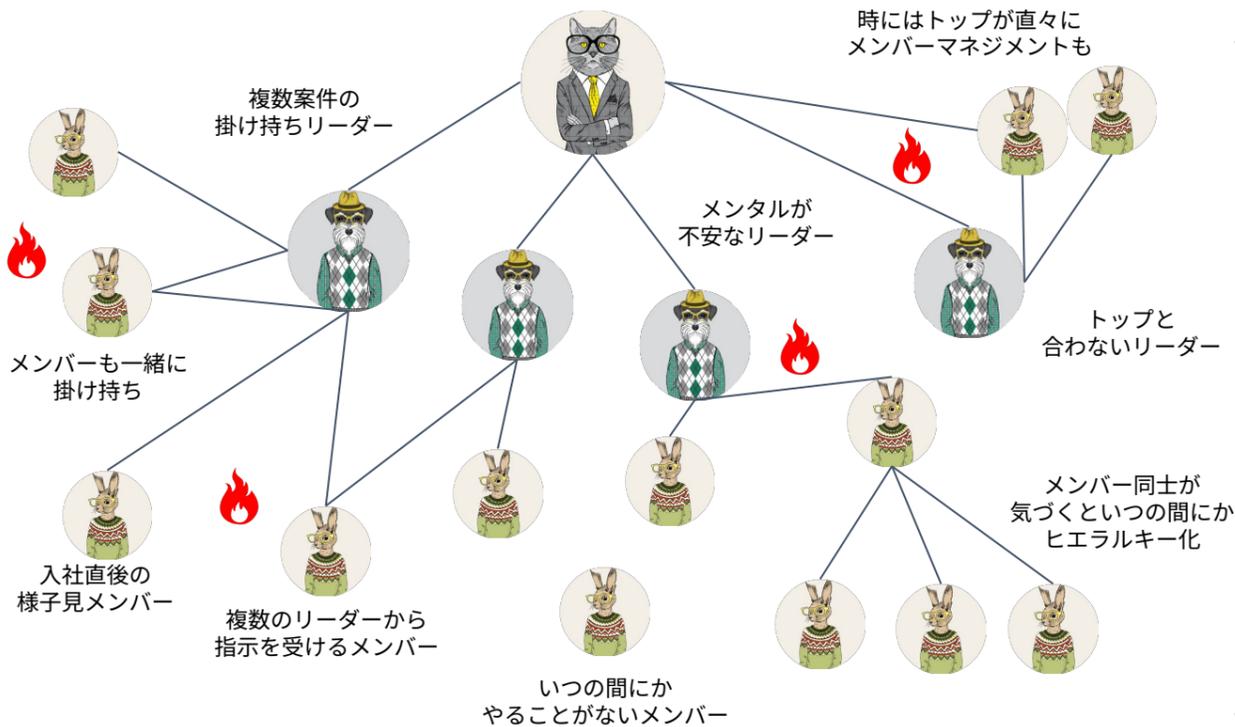


プロジェクト組織における 人と時間の配分の、ムリ・ムダ・ムラを解消する 「プ譜」を用いたグループコーチングサービスのご案内

本サービスは、複雑で不確実性の高いIT開発や事業開発業務を、同時進行で多数取り扱う組織のための、**組織伴走型のPM育成サービス**です。育成対象者に対して、**一ヶ月あたり2時間のグループコーチングセッションを、4ヶ月間実施**することで、プロジェクト進捗の改善、厄介な問題の早期検知、問題対応への時間コストの低下等、**組織全体の生産性を底上げすることが可能**になります。

このような状況は起きていませんか？



大規模プロジェクトがしばしば直面する問題

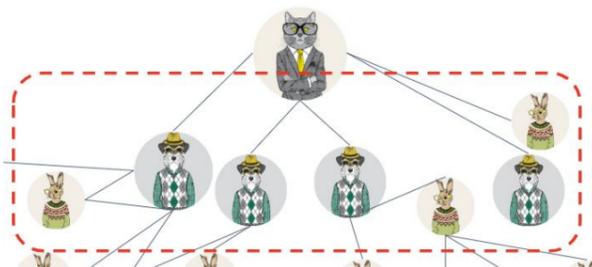
「決めていたはず」なんだけど・・・問題合意のうえで走り出したのに、モノができると、覆る結果、**当初の契約や計画以上のコストやオーバーワーク**

その中で、組織のトップやリーダーが直面する悩み

立案する構想や、問題対処の**思考の質が低い** 場当たりの**問題の本質を突いた解決の過程**を描くことができていない
確認や修正を責任者が担わざるを得ないことも多い

「**実質的に現場を切り盛りしている中核リーダー**」の、**プロジェクト進行スキルを底上げすることにより、リソース配分のムリ・ムダ・ムラを解消することができます。**

グループコーチングサービスの対象



- ① 普段、別の場所で、別の作業をしている実質的なリーダー同士で、月に1回、2時間、3名程度の少人数で、オンラインで集まる
- ② 各自が自分の持ち場で直面しているプロジェクト課題について、「プ譜」で整理する
- ③ 整理した内容をその場で共有し、それぞれが直面している悩みや状況を相互に共有
- ④ グループコーチングの実施内容、状況を定期的に組織長に共有することで、アサイン調整や現場での指導内容、方法の改善に活かす

短い時間投資で、高い効果を得ることが可能です。

投下時間

- プロジェクト組織の中核リーダーたち
 - ・ **月に1回、2時間**のグループショートセッション
- 組織責任者
 - ・ **月に1回、1時間**の月例報告

得られる効果

- 個人として得られる効果
 - ・ プロジェクト進行スキルの向上
 - ・ プロジェクト状況における課題の明確化
 - ・ 不安や孤独感の緩和
- 組織として得られる効果
 - ・ プロジェクト進捗の改善
 - ・ 厄介な問題が発生する確率の低減
 - ・ 厄介な問題の早期検知
 - ・ 問題に対応する時間の短縮化

事業にもたらされるアウトカム

より価値ある成果物が、より早く創出できる
社員の在籍期間が伸び、**ネガティブな休職や退職を防止**
利益拡大、業績向上

提供例

	直面していた問題	対象者	結果
Sler	<ul style="list-style-type: none"> 若い社員の入退社が激しく、組織に頼れる中堅メンバーが定着しない ナレッジ共有や業務の標準化にも力をいれるものの、なかなかうまくいかない 	<ul style="list-style-type: none"> 開発ディレクターとシステムエンジニアを12名選抜 4人チーム1組で編成 	<ul style="list-style-type: none"> 中核リーダーの思考の質が向上し、余計なトラブルの発生率が低下 トップと中核リーダーの意思疎通が改善し、ネガティブな離職、休職、退職が激減
大企業内 新規事業組織	<ul style="list-style-type: none"> ものづくり技術と先端IT技術の組み合わせ 投資の規模が大きく、関わるメンバーも数十人規模と、大編成 取り組み自体が混乱をきたし、実証実験の開催すらも危ぶまれる事態に 上市時期を宣言してしまったため、あとに引けない 	<ul style="list-style-type: none"> 4人の中核リーダーに対して、まずは状況整理と再構想の支援を実施 その後、4人の中核リーダーとその傘下のメンバーとの間でコミュニケーション改善を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 中核リーダーの不安が解消し、散らかった問題を整理することに成功 混乱を極めていた実証実験の前提整理が成功し、前倒して新規事業立ち上げが進捗

提供者自己紹介

よく受けるご相談の例

長年、新規事業の立ち上げに取り組んでいるが、うまくいくイメージが持てない

半年以上をかける、比較的規模の大きなクライアントワークで大きな問題が発生し、困っている

よくあるITプロマネとは違う、一般的なビジネス職の実務に役立つ教育コンテンツを探している

組織の若手の定着率が低い、中堅メンバーの層がなかなか分厚くならない

解決アプローチ

プロジェクトという、未知なる価値を生み出す営みが、その取り組みに関わるすべての人にとって「やってよかった」と思えるものになるように、矛盾が創造的に解決できる方法を諦めない、ということをして、大事にしています。

著書



○公募型講座の登壇実績

- ・ 宣伝会議様「プロジェクトマネジメント基礎講座」
- ・ SEカレッジ様「プロジェクトリーダーの基礎知識」
- ・ NTTデータユニバーシティ様「自分が楽をするためのプロジェクトコミュニケーション」
- ・ Schoo様「会議を制する者はプロジェクトを制する」

○企業内インハウス研修

- ・ ベネッセコーポレーション様「100人の事業開発リーダーのための、プ譜のワークショップ」
- ・ その他、製造業や金融、インフラ、デベロッパー等大企業様を中心に実績多数

○略歴

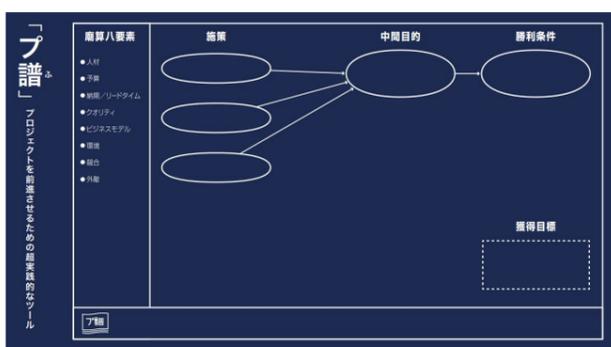
1982年生まれ、東京大学工学部システム創成学科卒。インクス、フューチャーデザインラボ、ポーターズを経てゴトーラボを設立、代表に就任。ものづくり、新規事業開発、組織開発、デジタル開発等、横断的な経験をもとに、何を・どこまで・どうやって実現するかが定めづらい、未知なる取り組みの進行手法を考える「プロジェクト工学」の構築に取り組んでいる。



プロジェクト進行支援家

Yohei Goto
後藤 洋平

プ譜とはなにか？



未知の要素を多く含んだ取り組みを、どう進めたいかを考えるための表現技法です。音楽家にとっての楽譜、あるいは棋士にとっての棋譜のように、人やチームが「どう動くのか」をわかりやすく、直感的にあらわすことができます。関わっているプロジェクトについて、自分がどうしたいかを立案し、その1ヶ月後に振り返る、ということを繰り返すことで、プロジェクトの状況を俯瞰し、どのような戦略で進めていくかを構想する力が養われます。

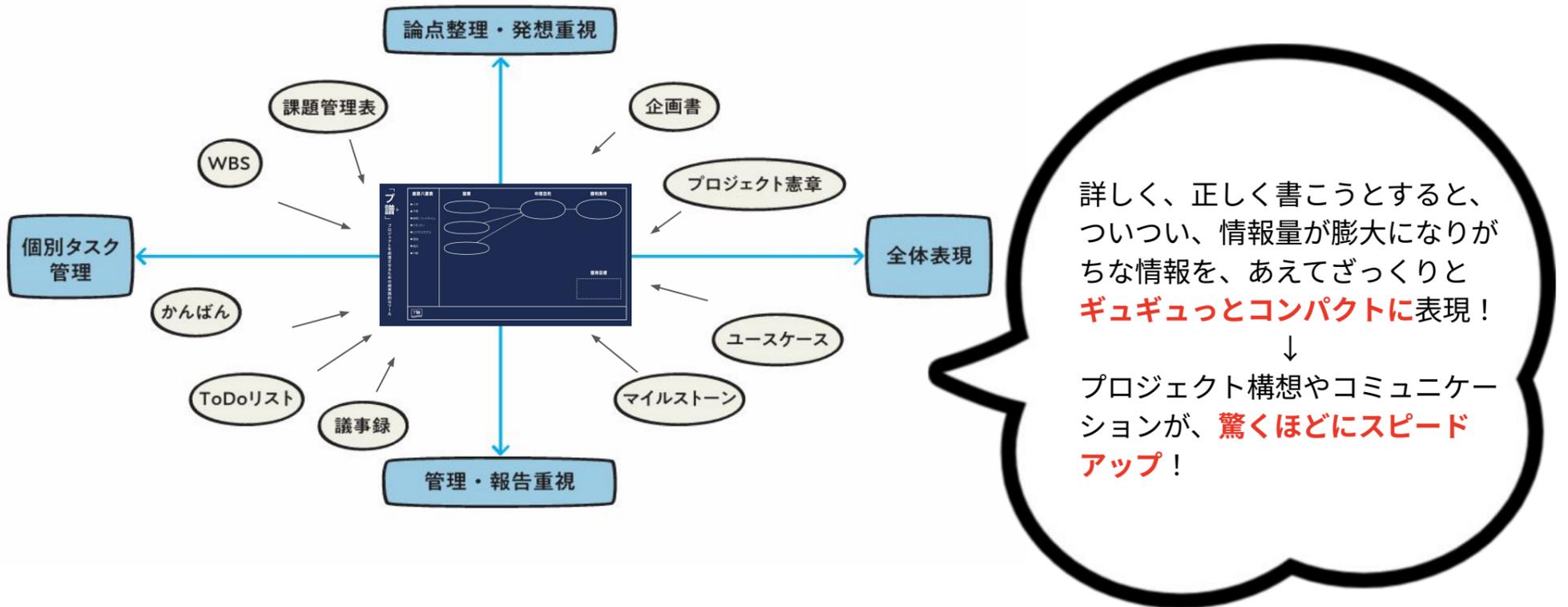
費用その他の詳細につきまして
ご興味を持っていただけの方は



スケジューラから
無料相談をご予約ください！
[リンクはこちら](#)

ブ譜についての、補足のご紹介

ブ譜とはなにか。簡単にいえば、企画書や実行計画書、課題やToDoなど、煩雑になりやすいプロジェクトの状況や、自分はこの方向で進めたいというイメージを、できるだけシンプルに、簡単に、大局観として表現する手法です。



いわゆる「プロジェクト管理」表現のデメリット

確かに理論的には正しい知識であるが、
 自分の目の前の業務に応用するのが難しい

やらせる/やらされるというイメージが先立つ
 意欲が湧いてこない

難しい
 長い学習時間がかかる
 挫折した記憶が蘇る 心が折れる

プロジェクト管理のやり方が適切かどうかを、
 上司や先輩、メンター等の助言者が把握するのが、難しい
 状況の共有や把握に、時間がかかる

ブ譜を用いたプロジェクト表現のメリット

短時間で、定期的に
「プロジェクトの立案、実施、振り返り」

参加者同士の共有や
 先輩、相談員からの**助言がしやすい**

自分ごととして**自発的に課題を認識**

自然な対話から**他者の考えも吸収**

孤独感や不安の解消

メンバーからリーダーへ、**一步前進**

会社全体としての**納品キャパシティの拡大**

ネガティブな退職の抑止

どういうことに役立つのか

大きく分けると、ブ譜のメリットには4つの方向性があります。

- ①状況を大局的に、ざっくりとつかむ
- ②優先順位が考えられるようになる
- ③施策のアイデアが出てくる
- ④意思疎通の具合が良くなる

プロジェクト活動が複雑化すると、どうしても、ひとつひとつの枝葉の話が気になり、木を見て森を見ず、ということになりがちです。A4~A3サイズぐらいで、このような形で表現すると、その取り組みを進めるにあたって、なにを大切にしたいか、という、ざっくりとした方向性がわかりやすくなります。

どんな用途で使うのか

ひとりで使っても構いませんし、チームでも、あるいは顧客と一緒に活用することも可能です。工夫次第で使い道は無限大です。

- ・行き詰まった取り組みの立て直しを立案
- ・キックオフ時のチーム立ち上げ
- ・上司部下の関係改善
- ・現場で起きていることを経営側が理解
- ・部署や組織をまたぐ取り組みの計画作り
- ・カスタマーサクセスにおける伴走ツール
- ・受託開発における要件定義
- ・社内事例の蓄積、次世代への継承
- ・project based learningの補助ツール 等

具体例

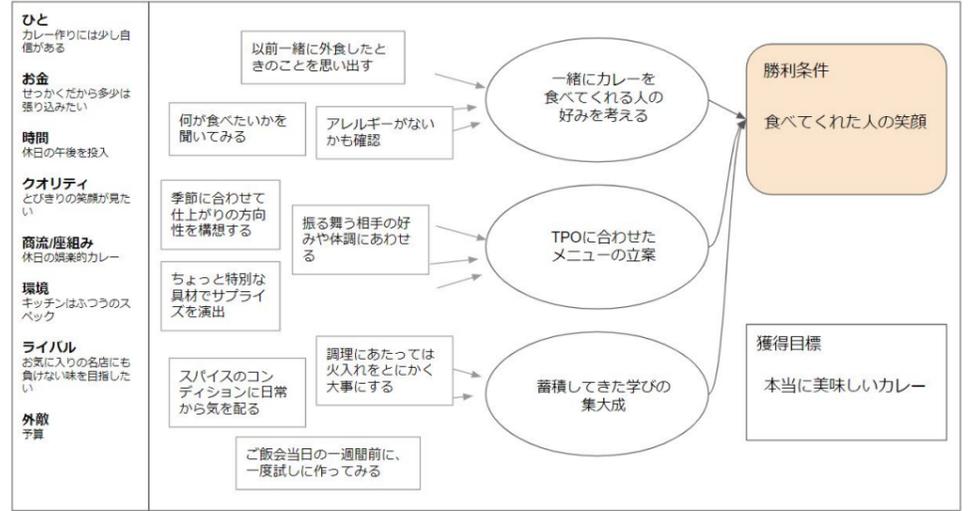
例えば、「カレーを作る」を題材に、一般的なプロジェクト管理表現と比較してみますと・・・

一般的なプロジェクト管理表現

No	作業タスク	担当	開始予定日	終了予定日	ステータス	進捗
1	材料の準備					0%
2	材料調達					0%
3	買い物リストを作成する	A	〇月〇日 何時	〇月〇日 何時	完了(レビュー待ち)	80%
4	お金をあつち	A	〇月〇日 何時	〇月〇日 何時	完了(レビュー待ち)	80%
5	スーパーに行く	B	〇月〇日 何時	〇月〇日 何時	完了(レビュー待ち)	80%
6	下ごしらえ					0%
7	たまねぎを剥く	C	〇月〇日 何時	〇月〇日 何時	着手済み	15%
8	玉ねぎを切る	C	〇月〇日 何時	〇月〇日 何時	未着手	0%
9	人参を剥く	D	〇月〇日 何時	〇月〇日 何時	未着手	0%
10	人参を切る	D	〇月〇日 何時	〇月〇日 何時	未着手	0%
11	調理					0%
12	コメを炊く					0%
13	米を洗う	A	〇月〇日 何時	〇月〇日 何時	着手済み	15%
14	炊飯器にかける	A	〇月〇日 何時	〇月〇日 何時	未着手	0%
15	ルウを作る					0%
16	油を引く	B	〇月〇日 何時	〇月〇日 何時	未着手	0%
17	玉ねぎを投入	B	〇月〇日 何時	〇月〇日 何時	未着手	0%

作るメニューが決まっています、各工程の中身や工程同士の関係性が十分に既知である場合に、もれなくミスなく進めていく、という場合に向いている

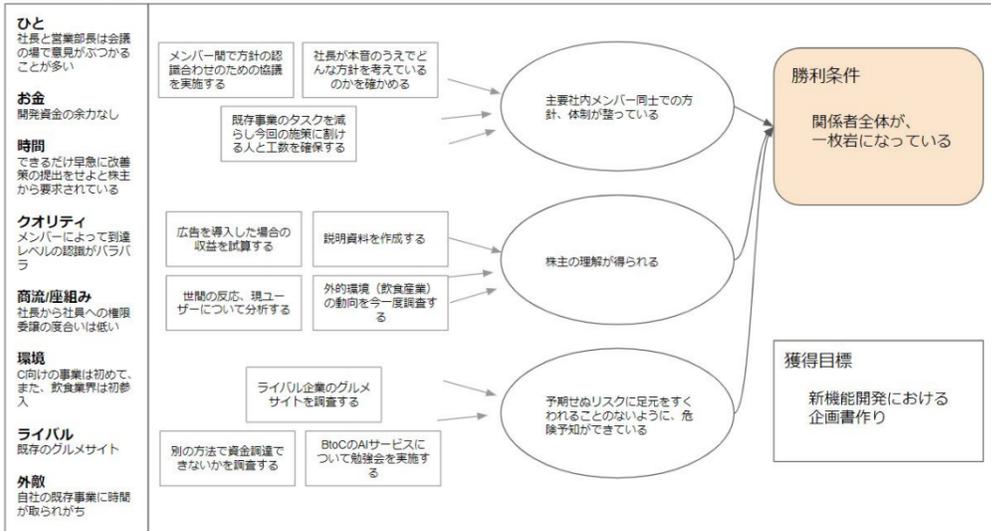
プ譜による表現



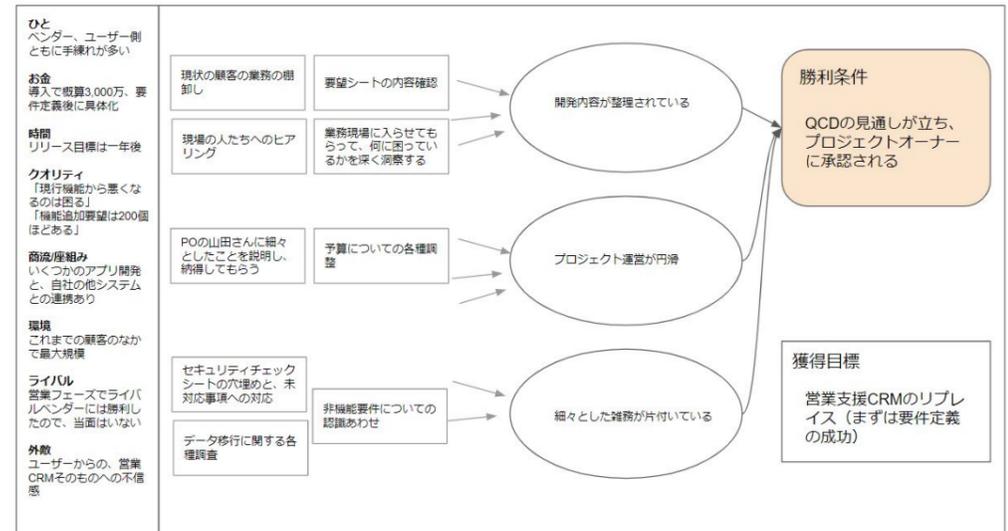
どんな趣旨で、何を目指し、どこに向かってきたいのか、また、どのような制約があり、なにがコントロール可能か、という全体状況を表現するのに向いている

ゴールや成果物が、必ずしも明確でない取り組みでも、幅広い状況で、活用ができます！

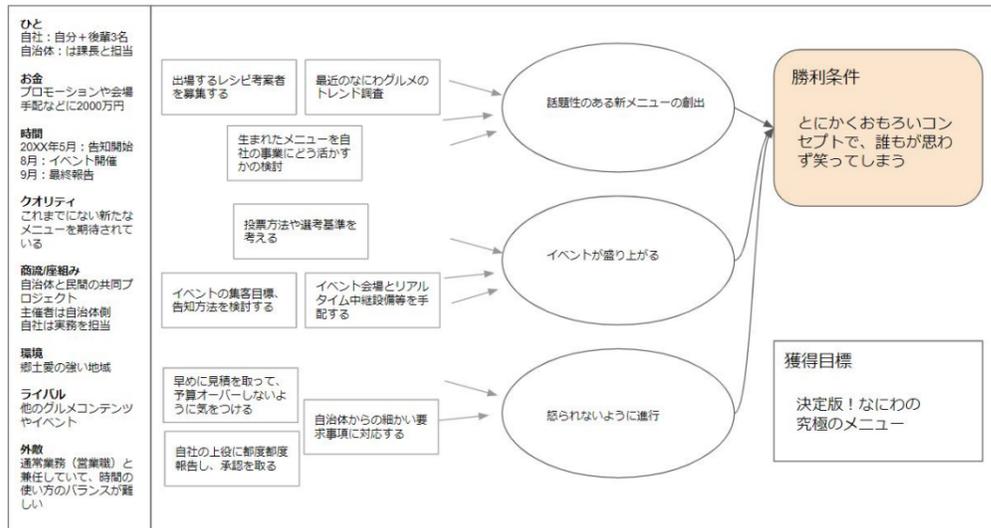
スタートアップ新規事業「グルメサイトテコ入れ」



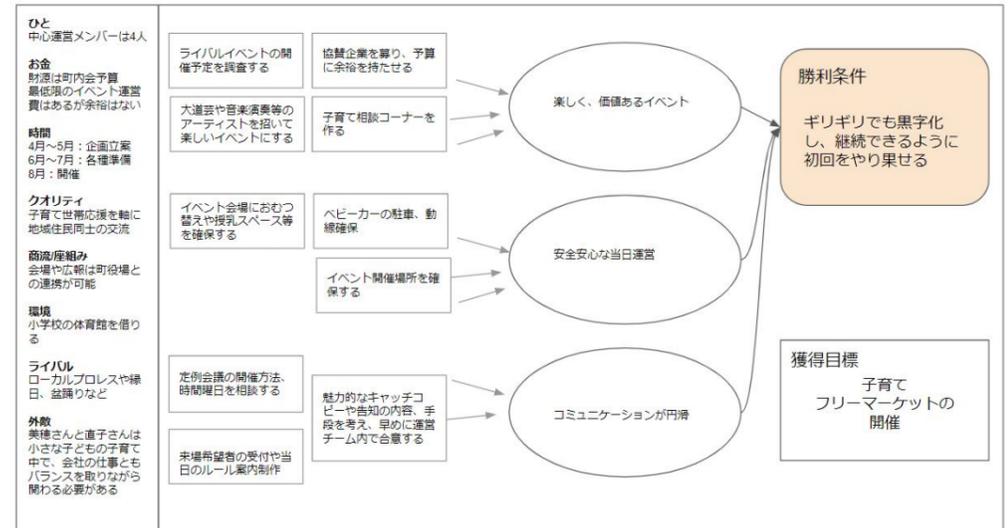
IT受託開発ディレクション「基幹業務システムのリプレイス」



官民共創プロジェクト「新たなご当地グルメ」



地域イベント「子育てフリーマーケット」



費用その他の詳細につきまして
ご興味を持っていただけた方は



スケジュールから
無料相談をご予約ください！
[リンクはこちら](#)

Q&A

以下は、サービスについて、よくいただくご質問への回答です。

Q.ターゲットについて：どのような受講者層に向けたサービスかを知りたい（PM経験の有無等）

A.

SlerやWeb制作、SaaSベンダ等のIT/デジタル職の場合、中規模プロジェクトのPMや大規模プロジェクトのパートナーの方が中心的な対象となります。

新規事業や社内の業務改善/変革系プロジェクトのメンバーの場合も、年齢層でいえば20代後半～40代前半ぐらいまでで、ある程度社内の業務には通暁していて、かつ、経営層からの期待値がありながらも、事業立ち上げやIT関連業務の経験が薄く、ミッションを担うには少し不安が残る、といった方が対象となります。

IT/デジタル職の場合の例)

役職	開発ディレクターやSE
役割	顧客との仕様や要件の調整、折衝、交渉 成果物の企画、設計、製造ディレクション 若年層メンバーの統括、指導 等
業務経験の目安	5～10年
PM経験の目安	<ul style="list-style-type: none">• 一定程度の用語は知っている 業務上、社内のフォーマット等でPM用語に接することが多い 社内研修やPMBOK系の研修の受講経験あり 自主的にプロマネ系のビジネス書を読む 等• とはいえ、知識が身体化されていない 実際に業務の上で使いこなせるかというと、そうではない 大きな責任を負うことに恐怖感がある シビアな折衝や交渉の場に立つにはまだまだ心もとない

Q.提供方法について知りたい（アジェンダ、所要時間等）

A.

提供サービスは、グループコーチングです。

基本的な構造は、月に1回、3名程度の小グループで2時間集まり、その場でプ譜を書き、共有し、ディスカッションを実施する、というものです。特定のプロジェクト型業務を題材に、ある月はその進行方向を立案、検討し、翌月は実際に進めてみてどうだったかを振り返る、という形式です。

アジェンダ、所要時間は以下の通りです。

立案回	振り返り回
9:00 - 9:10 場の趣旨の説明 9:10 - 9:30 ワークの題材の相談 9:30 - 10:20 個人ワーク(立案) 10:20 - 10:30 休憩 10:30 - 10:50 グループ討議 10:50 - 11:00 チェックアウト	9:00 - 9:10 場の趣旨の説明 9:10 - 9:40 個人ワーク(振り返り) 9:40 - 10:20 グループ討議 10:20 - 10:30 チェックアウト

※備考※

普段の業務の邪魔とならぬよう、事前課題等は一切不要としています
3名の受講者に加え、オブザーバの同席をを推奨しております
オブザーバの役割は2点です

- ①ワークの題材についての相談
- ②受講者の個人ワーク結果に対する助言

プログラムの例は下図の通りです。

今シーズンの計画		
メンバー	オブザーバー	
A 竹下 森山 鈴木 B 山本 渡辺 佐藤 C 藤井 佐々水 村西	進藤 大林 栗原	
6月 (9:00-11:00) 6/1 (水) : プ譜の立案B 6/8 (水) : プ譜の立案A 6/15 (水) : プ譜の立案C 6/23 (木) : 月例会	8月 (9:00-10:30) 8/3 (水) : PMの基礎概念と作法A 8/10 (水) : PMの基礎概念と作法B 8/17 (水) : PMの基礎概念と作法C 8/25 (木) : 月例会	9月 (9:00-11:00) 9/7 (水) : プ譜の立案A 9/14 (水) : プ譜の立案B 9/21 (水) : プ譜の立案C 9/22 (木) : 月例会
7月 (9:00-10:30) 7/5 (水) : 振り返りA 7/12 (水) : 振り返りB 7/19 (水) : 振り返りC 7/27 (木) : 月例会	10月 (9:00-10:30) 10/5 (水) : 振り返りA 10/12 (水) : 振り返りB 10/19 (水) : 振り返りC 10/20 (木) : 月例会	

※備考※

「立案」→「一ヶ月の業務実践」→「振り返り」というサイクルを最小単位とし、2回、3回と繰り返していくことで、「俯瞰力」「目線の向上」を実現していきます

左図は、オンデマンド動画を用いたPMの基礎概念習得を織り込んだ場合の例です。

Q.他サービスとの違いや特徴について知りたい

A.

例えば、PMBOK系のPM研修や、いわゆるITプロマネ的な研修の違いとしては、やはり、通常のPMBOK系研修だと、扱う知識が高度に抽象化されすぎていて、受講者にとって、個別具体の業務に応用することが非常に困難になりがちである一方で、プ譜のグループコーチングは、個別具体の業務から出発して、プロジェクトの進め方における普遍的な法則や智慧に迫っていく、というところが最大の違いだと思っています。

	あるべき育成像	一般的な集合研修	OJTやハンズオン支援
形式と頻度	少人数 短時間 定期的	大人数 長時間 不定期	一対一 (または複数) 随時、不定期
具体的な、実務上の課題や問題への構え	現実問題を 自身で考え整理できる	抽象的な理想論から考える	現実問題を 手取り足取り扱う
気づきのプロセス	メンターとの対話で 自ら気づく	講義や討議を通して自分なりに考える	指摘を通して気づかされる
気づきの質	◎ 理論と現実が結びつく	△ 理論は理解できるが現実に結びつきにくい	△ 現実に対応できるが体系化しづらい

プ譜のグループコーチングは、プ譜というフレームワークを用いて、プロジェクトの大局観を養うということが第一の特徴となりますが、自分ひとりでこれをやるのではなく、自分と近い立場で、異なる案件、異なる規模、異なるフェーズの取り組み事例を、互いに共有するという点が、非常に大きなポイントとなります。

Q.プ譜の魅力とは？

A.3点、あると考えています。

応用範囲の広さ	IT/非ITに限らず、またその取り組みの大小、フェーズ、ゼロイチか改善か等の題材によらず、極めて幅広いプロジェクトに適用できるのが面白いところです。 ルーチンワークの惰性によって思考が停止していなければ、何らかのプロジェクト性のある取り組みであれば、必ず、何かしらを表現することができ、そこから、気づきを得ることができます。
直感性	もったいぶった座学や知識のインプットをせずとも、とりあえず集まって、その場で最低限のガイドを受ければ、何かしらはプロジェクト構想を表現できる、直感性も面白いところだと思います。
自ら考え、自ら気づく	偉い先生から指導を受ける、ということではなく、自分なりに、自分の置かれた状況を解釈し、自分なりに活路を探す、というプロセスが、プ譜を用いた思考の良い点だと思っています。

費用その他の詳細につきまして
ご興味を持っていただけた方は



スケジュールから
無料相談をご予約ください！
[リンクはこちら](#)